

(仮)宮代町の未来の教育

1. 宮代町らしい教育の取組み	
①環境教育	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は「身の回り」の教育、将来はもっと広く、中学へもつながるようにしたい。 ・キッズISO を中学で行うことは難しい。マニュアルも、ゴールもない。 ・「中級編」を活用するという方法がある。総合学習に組み入れる、という方法もある。 ・自分たちがどのように進めていけばよいか、ということをサポートする組織が必要。 ・体系化するテキストを作る。 ・学校だけで実践が困難であれば地域で支える仕組みがあっても良い ・大学・地域・父母・・・子どもは忙しいというが、方策はある。 ・「宮代エコサミット」、「子ども環境会議」さらに発展させたい。
②多文化	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化の中で自分たちが生きるということ。 ・学校教育の中では、英語教育を宮代独自のものとして展開したい。すべてを英語で話すということ。ろうつしで伝えていく。
③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> ・宮代町が今取り組んでいる道徳教育。 ・宮代町が作成した郷土教材を大事にする。(人を大事にし、格差のない、民主的な社会) ・小中学校7校間に学校差がなく、「あたりまえ」の教育をしていること。
④小中連携・一貫教育の充実と発展	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども・教科指導の一貫性をすすめる ・小中の連携は、各中学校区を中心に、特色のある連携を実践中。 ・先生方が仲が良いのも連携の賜物 ・中学生が小学生を教える機会も、共に育つきっかけ ・中学校の運動会へ小学校高学年の子たちが参加(鼓笛の演奏)
⑤宮代の子どもたちは町全体で育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携、交流・支援のための公益団体組織づくりや組織・地域づくり

学校教育WG	
【宮代町の取組み】	<ul style="list-style-type: none"> ・キッズISO ・宮代江戸の日 ・子ども環境会議
【意見のポイント整理】	<ul style="list-style-type: none"> ・宮代町では、他に先駆けて「環境教育」を実践、力を注いでいる ・環境を考えることは、地域、ひいては世界を考えることにもつながる ・現在は、「学校」「家庭」を中心とした「身の回りの環境」の教育 ・ここに「地域」も巻き込んだ大きな取組みへと発展できたら良い ・「環境問題」を通して、子ども達の課題解決の力、生きる力を育てていけたら…
学校教育WG	
【宮代町の取組み】	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校低学年からの英語教育 (ALT巡回、補助員配置)
【意見のポイント整理】	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
学校教育WG	
【宮代町の取組み】	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳副読本「島村盛助」「どんぐりピアノ」を作成、活用 ・「道徳の日(11月19日)」を定め、各種取組みを実践
【意見のポイント整理】	<ul style="list-style-type: none"> ・宮代町の子どもたちは「あいさつ」が素敵、地域も関わった「あいさつ運動」も奏功 ・また、町独自の郷土教材を活用した「道徳教育」にも注目できる成果
学校教育WG	
【宮代町の取組み】	<ul style="list-style-type: none"> ・各中学校区ごとに実践中
【意識調査結果】	<ul style="list-style-type: none"> 主に「自由意見」 ・小学校→中学校へ同じ顔ぶれで進級できるので安心 ・小学校→中学校の9年間同じ顔ぶれであるので、揉まれる機会がない
【意見のポイント整理】	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の連携は今後もさらに進めたい ・
学校教育WG	
【意見のポイント整理】	<ul style="list-style-type: none"> ・⑨と重複

	<p>⑥異年齢交流の充実と発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掃除、遠足、休み時間など、上級生が下級生の面倒をよくみる機会、中学進学にもつながっている ・高学年は責任感を培う好機、低学年は高学年を頼り、良い関係につながる。 ・少子化、兄弟の少ない現代では必要な取り組み
	<p>⑦宮代町の学校を超えた交流の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校と高校、大学、特別支援学校など
	<p>⑧子ども文化の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・綱引き大会、郷土かるた大会など、学校間交流 ・俳句づくりで心豊かに
	<p>⑨学校支援の仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校のパトロールに多数が参加 ・各校でサマースクールが実施されている。 ・図書を始め、ボランティアによる教育参加がある。 ・地域の方が読み聞かせをしている。 ・地域に大事にされている、守られていれば学校に対するイタズラも少なくなる。 ・学校を運営する上では、地域と共存していくことは大切。（苦情に発展しないことが大切） ・卒業生の保護者が多いと心強い面も。 ・学校施設開放も地域連携のひとつ。 ・地域住民も招待して、地域一体で運動会をやるというのが魅力的。 ・学校が「地域コミュニティの中核」であってほしい、ということからコミュニティを吸収できないか。 ・児童生徒数の減少によりPTA会費も減。 ・予算が確保できず、先生が樹木消毒や剪定を実施。バザーへの期待度は高い。 ・組織づくり、PTA組織の他に「学校育成会」というものを設けている事例も。 ・地域ぐるみで学校を応援する組織。

<p style="text-align: right;">学校教育WG</p> <p>【意見のポイント整理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化、兄弟姉妹の少ない今日、人間関係を培う機会は大切 ・各小中学校で取り組まれている「縦割り班」による異年齢交流はその好機 ・上級生は下級生の面倒を見る（責任感）、下級生は上級生を頼る（信頼）良好な関係を築くことが期待される
<p style="text-align: right;">学校教育WG</p> <p>【宮代町の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校にて実践中 <p>【意見のポイント整理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮代特別支援学校との交流促進 ・大学による学校支援学生ボランティアの活用の促進
<p style="text-align: right;">学校教育WG</p> <p>【意見のポイント整理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小学校では「綱引き大会」「郷土かるた大会」などの各種競技大会へ積極参加 ・これらを通じて、互いに高めあう心、礼儀やマナーを学んでいる
<p style="text-align: right;">学校教育WG</p> <p>【宮代町の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校応援団 ・スクールガード、子ども110番の家 ・町民みんなが先生制度 <p>【意見のポイント整理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在も各小中学校において様々な地域連携の取組みを実践中 ・子どもが「卒業」してしまうと、学校との関わりは薄くなりがち ・学校を地域の中心として、みんなで応援していく仕組みがあれば教育活動だけでなく様々な効果が期待される

2. 通学区域・配置

① 1学年あたりの学級数

《共通》

- ・クラス替えや、友人の充実が図れる規模が望ましい。
- ・児童生徒数が多くなれば、学校行事が盛り上がる。
- ・学年全体を見るためには学年6学級が上限ではないか。
- ・PTA会員の数も増加し、会費増収、人手増も期待できる。

《小学校》

- ・小学校では2学級は少なく、各3学級が理想ではないか。

《中学校》

- ・学年が2～3学級になると、教科によっては配置1人になってしまう。芸術系の教員は、自分の授業＋総合などになる。今は、県の非常勤講師を配置されているが、曜日によっても限定されるため、難しい。管理上の問題とすると、難しい。
- ・中学校は各学年4～6学級欲しい。教科指導の教員が複数配置されることが理想。
- ・1教科に複数の教科教員がいれば相談、連携ができる。
- ・体育の授業などには「偶数」学級がよい。

② 1学級あたりの児童生徒数

- ・学級数同様、相応の人数は必要、児童数減は学校経営にも影響する。
- ・現行国基準は「40人／学級」、小学1、2年生は「35人／学級」
- ・現行制度では、小学1、2年生は「38人」で編成、3年生に進級した際に起こる学級数が増(減)により1クラスの人増、多いと感じる
- ・生徒数が少なくなり、部活動の種類や部員の数が限られている。

- ・教育の質を確保するためには、「評価権」のある正規教員が望ましい。
- ・町費で教員を採用、加員して「30人学級」を実現するよう働きかけたい
- ・現在、町では非常勤講師を配置し少人数指導(30人程度)として実践
- ・教科は「算数」中心、それ以外にTT(チームティーチング)として、1教室2名体制で行なう場合も
- ・「クラス担任」を持てる教員を町費で配当出来れば少人数となるのでは。そういう取組みの自治体もあると聞く。

③ 学校自由選択制

- ・現行の制度を存続する。
- ・但し、一部地域では隣近所で違う学校に通わせているケースもあり、地域コミュニティのくずれが懸念される面も。

学校教育WG

【意識調査結果】望ましい学級数

単学級	小学校		中学校	
	保護者	教職員	保護者	教職員
	0%	0%	0%	0%
2	13	10	1	0
3	68	83	52	10
4	12	7	25	50
5	5	0	17	27
6	1	0	4	13
その他	1	0	1	0

【意見のポイント整理】

- ・意識調査でも見られるとおり、1学年あたりの学級数はクラス替えのできる複数学級が望ましい(小、中ともに3クラス以上)
- ・先生数は「クラス数」に応じて配置数が決められるため、特に中学校ではクラス数の減少が進むと「全教科」の担当教員が常勤で配置されない事態も生じる

学校教育WG

【意識調査結果】望ましい1クラスの人数

20人以下	小学校		中学校	
	保護者	教職員	保護者	教職員
	4%	3%	2%	0%
21～25	31	41	16	0
26～30	47	53	46	12
31～35	15	3	31	58
36～40	3	0	5	30

【意見のポイント整理】

- ・子どもが少ないほど一人一人に目が行き届くという利点はあるが、逆に少なすぎることで行事や教育活動に制約があったり、互いに切磋琢磨する機会も難しくなる。
- ・1学級あたりの人数は、その学年の総数に応じて流動的であるため一概に決めることはできないが、概ね30名程度が望ましいと考えられる。

学校教育WG

【意識調査結果】「自由意見」から

- ・小中学校を選択できるのは良いこと
- ・決められた学区の学校に進むほうが安全、学校の人気格差もなくなるのでは

【意見のポイント整理】

- ・自由選択制は「特色ある学校づくり」に寄与する一方で、
- ・今後益々重要視される「地域連携」「つながり(絆)」が薄れることは心配

④通学路・距離

【これまでの意見（学校教育WG）】

- ・学校は「避難所」でもあるので、歩いていける距離が良い
- ・遠方となる場合は「スクールバス」導入も考えたい。
- ・昨今話題の「カミナリ」の安全対策ができないか。
- ・通学路として「車の多い駅前」「五差路」のような危険箇所は回避したい。
- ・地域(こども110番の家)の協力が大事、PTAとして御礼をしたいが、「住所氏名非開示」とのこと。
- ・「こども110番の家」は、通学路上にないと効果が薄いのではないか。
- ・学校再編により通学路が長くなったりすると「110番の家」がのぞめない。
- ・小学校の登下校では「スクールガード」による見守りがあるが、中学校の登下校時間には対応できていない。特に、朝練や夕方日没後の中学生女子が心配。自転車でも狙われることがある。
- ・科学的な知恵を採ることも必要、これにより安全対策を進める。
- ・「安全対策」は今から実践できること。「機器」、「マンパワー」、「子どもに対する教育」が3つの柱。
- ・通学路ハザードマップの情報が地域に下りていない。
- ・「学校後援会」のような地域組織が必要ではないか。
- ・機器として、「携帯電話」は効果的。近く人家がない場合、連絡手段にもなる。
- ・携帯電話、スマートフォンは、安全利用のための「情報モラル教育」が必要。
- ・見守りパトロール隊の存続(高齢化)が懸念
- ・以前は自治会から「地域で守る」との申し出
- ・今は少なくなっている、また、新しい人が入らない
- ・地域のパトロールがなく、PTAが交代で行なっている地区も
- ・子どもたちからの御礼の機会を設定
- ・「当たり前」という親がいる現実がある。

【6/5 教育環境WG意見】

- ・海外から来た人は日本の「通学班」「子どもだけの登校」に驚く、日本は「安全な国」なのだそう。
- ・しかし、今日では様々な犯罪の恐れもあり、登下校中の安心安全確保は必要。
- ・「交通安全」については、道路や安全施設の改善により対応
- ・「防犯」が課題、現在下校時にの地域パトロールが行なわれているが、高齢化が進み止める人があ一方で新しい人の加入がない。また、保護者は入ってこない。
- ・自身の子どもの問題であり積極的に関わって欲しいと感じることもある。
- ・下校パトロールによる子どもの随行にも死角はある、毎日同時間に通行つことが知れるとその隙をつかれるのではないか。
- ・むしろ、「地域の玄関」で見守る方が効果的ではないか(個々の家が見守るかたち)。
- ・意識調査にもあったが、子どもは歩いて体力をつけさせたい。よって、スクールバスは推奨したくない。
- ・つまり、「歩ける距離」への配置が必要ではないか。
- ・この点で、意識調査結果の「距離(2km内)」「時間(30分内)」はひとつの目安となる

【意識調査結果】 通学距離、時間の上限

	小学生保護者	中学生保護者
通学距離	2kmまで	3kmまで
通学時間	30分まで	30分まで

※参考 意識調査結果の分析(通学距離・時間の回答を加重平均分析)
小学生の徒歩速度 概ね 3.3 ~ 3.5km/h ⇒ 30分に換算 ≒ 1.7km

スクールガード、パトロールへの目にみえる感謝の気持ち(行事、懇親会など)
ボランティアさんを大切にする
子ども110番の家 の活用とあいさつ
防犯カメラ
危険箇所の改善
「防犯パトロール中」の表示増設
「地域防犯会」の立ち上げ
青色パトロールの拡充(地域の参加)

招待状を出す、新年度につながる機会を持つ、下校時間に人がいることが大事

【意見のポイント整理】

- ・通学路に求められる一番の条件は「安全性」
- ・「交通安全」は道路改良や標識等により環境改善が可能、「防犯」でも、様々な道具の活用は必要であるが、やはり人の力(マンパワー)が必要
- ・これを現在支えている層の高齢化が進行しているなか、体制づくりが求められるのではないか
- ・また、特に小学生では「歩いて体力を培う」ということもあるので、遠いから即、スクールバスということではない。
- ・つまり、通学区域設定にあたっては、「歩いて通える距離・時間」を考慮する必要がある。

⑤学校の場所

【これまでの意見（学校教育WG）】

- 学区の中心にあり、通学も安全。
 - 町の端の方にあるため、不審者関係の問題も。
 - 駅からの距離が近いと「電車を使った遠征」も便利。
 - 小中学校が隣接していると「一貫教育」が容易、連携がとりやすい。
 - 自然環境が多く、生き物に触れ合う機会多々。
 - 住宅地内の小学校のため、近隣への音の配慮が必要なケースもある。
 - 小学校→中学校、同じ児童が進学する場合、あまり緊張感をもたずに中学校へ。
 - 複数小学校から進学する中学校は、人間関係をリセットして取り組める部分も。
- また、2つの小学校の良いところを取り入れることも可能。

【6/5 教育環境WG意見】

- 学校内、周辺には自然環境が必要。
- 笠原小の「はだし教育」も良い
- 学校の立地として、笠原小のように「利便性」「自然環境」を供えた環境は良い
- すぐそばに住宅がなく、土埃等の飛散による近隣苦情の心配もないと聞く
- 住宅が隣接する場合でも、バッファー（緩衝帯）があることで、緩和できるのではないか
- 校庭には、子どもたちが思いきり運動できる広さが欲しい
- 宮代町は細長の地形であり、どの場所も比較的良い立地ではないか

教育環境WG

【意識調査】 通学区域設定上の配慮事項？

	小学生保護者	中学生保護者
安全面への配慮	48%	48%
通学距離	38%	35%
バランス	11%	13%

【意見のポイント整理】

- 学校の場所と通学距離、登下校の安全確保は密接に関係
- 学校の配置上はバランスが大切。
- 市街地の利便性、人の目が届く安心と、自然環境の両方を供えることができればベスト。
- また、市街地内では近隣への配慮が求められるケースもあるため、施設面での対策（防音など）と併せ、学校と周辺住民との関係構築も必要

3. 校舎と校庭

① 建物のつくり、校庭

【これまでの意見(学校教育WG)】

- ・「木」を活用した校舎が良い
- ・「耐震」など安全面が確保されていなければならない。
- ・子どもの記憶に残る建物の特徴
- ・建物構造により丈夫な体を育めないか
- ・校庭が広く、のびのびと生活ができています。学年を分けて活動できる。
- ・教育環境としては、全力でおもいきり活動できる校庭が魅力(体力向上)。
- ・道路にボールが飛び出したり、民家の屋根に飛んでいけない環境。
- ・年数を経ており校舎の老朽化が著しい、雨漏りなど懸案事項多々。
- ・夏の暑さが増しており、エアコンが必要。
- ・児童生徒数の増減にも対応できる柔軟な構造が取れると良い。
- ・「オープンスペース(廊下と教室の仕切りがないもの)」を取入れている学校もある。
- ・隣の教室の声が聞こえるため授業形態により向き、不向きはある。
- ・車両と子どもの動線交錯は回避したい。

【6/5 教育環境WG意見】

- ・児童生徒数の急増した時代に建て増しを繰り返したため校舎同士が離れていて使い勝手がよくない
- ・校舎建物は1棟が理想で、全体を見渡せるつくりが良い(配置としては前原中のような構造が良い)。
- ・建て増しとも関連するが、駐車場が十分ではない。
- ・また児童生徒の登下校をはじめとした、動線との交錯も回避したい
- ・建物には「木のぬくもり」が欲しい
- ・但し、すべて木造とする必要はなく、内装に木材を用いるなどの工夫も良い。
- ・あくまで、安全性、メンテナンス性との兼ね合い
- ・「トイレの洋式化」、現在ほどの家庭も洋式が主流。特に、低学年に課題あり。
- ・現在は街中でもコンクリート部分が増え、暑さの質が以前と異なる。エアコンは必須。
- ・小中一貫もメリット、デメリットあり、小中学生がずっと同じ校舎は好ましくないのではないか

② 安全・安心

【これまでの意見(学校教育WG)】

- ・人(学校監視員の存在意義は大きい。)
- ・設備(防犯カメラ等)

【6/5 教育環境WG意見】

- ・学校の構造上、「入ろう」と思えばどこからでも入れてしまう
- ・防犯カメラ、監視員など方法は様々であるが「絶対」というものはない
- ・笠原小では「陽だまりサロン」が併設されているが、防犯上困っているという話を聞いたことがない

教育環境WG

【意識調査結果】優先して整備すべき施設・設備

小学生保護者	中学生保護者	教職員 小学校	教職員 中学校
①トイレなど 26%	①エアコン 27%	①トイレなど 24%	①エアコン 28%
②エアコン 25	②トイレなど 22	②エアコン 20	②トイレなど 19
③セキュリティ 21	③セキュリティ 19	③パソコン 17	③パソコン 17

【意見のポイント整理】

- ・子どもたちの学びの環境に「木」を取り入れたい。
- ・もちろん、「耐震性」などの安全面の確保は大前提。
- ・また、安全面では児童生徒と車両の動線を別にするなどの配慮も必要
- ・建物施設は、やがて劣化するものであり、後のメンテナンス性にも着目して建設することが必要
- ・屋内環境では、意識調査にもあるとおり「エアコン」「トイレ」の改善が求められる

教育環境WG

【宮代町の取組み】H26小学校4校へ防犯カメラ設置予定

【意見のポイント整理】

- ・学校内の安全確保を図る上では、防犯カメラ等の機器(ハード面)と、人的資源(ソフト面)の双方があればより安全

③他の施設機能

【これまでの意見(学校教育WG)】

○生涯学習の機能

- ・学校に図書館機能があったら良い。高齢化社会も背景として身近な場所にミディアムサイズの図書館があるといい。
- ・スタイルは要検討、牛久市のような「地域開放型」と、町立図書館を併設した「多機能型」のいずれか？

○子育ての機能

- ・小学校に保育施設があればよいと思う。小学校を見る、小学校が見る。子どもの姿勢がいい。
- ・PTAの視点でも、一時保育を利用して小学校の中に保育園があると学校行事に参加しやすいのではないか、また学童と保育園の迎えも1回で済む。
- ・小1プロブレムが解決に向かうかもしれない。新しく子育てに向かうお母さんにとってもよかった。
- ・札幌市では、小学校の中に保育園がある。子ども園にすることもできる。子どもが同じ場所にいるだけで、親も 学校で準備する。

○地域との交流施設

- ・陽だまりサロン。校内にお年寄たちとふれ合える場所がある。

【6/5 教育環境WG意見】

- ・防犯とコミュニティには相反する面もある、この点で「多機能化」は難しい。
- ・学校施設の地域開放を行なう場合、これを管理するための人員が必要である。

教育環境WG

【意識調査結果】 地域で利用される施設との連携・共存？

	小学生保護者	中学生保護者
良い	55%	51%
施設による	43	47
良くない	2	2

※「良くない」理由 …「安全面が心配」「学習に集中できないのでは？」

【意識調査結果】 学校に併設したら良い機能？

	小学生保護者	中学生保護者
福祉サービス	21%	25%
子どものため	57	42
コミュニティ・生涯学習	20	31

【宮代町の取組み】

- ・各小学校に学童保育併設
- ・笠原小学校に「陽だまりサロン」「すだちの家」併設

【意見のポイント整理】

- ・学校施設の多機能化、地域開放によるメリットは大きいですが、実施にあたっては学校本来の機能を損なうことのないよう配慮が求められる。
- ・児童生徒と一般利用者との場所、動線は重ならないようにする必要がある